

# 令和 6 年度に係る主な業務実績に関する報告

## [趣旨]





地方独立行政法人法の改正（R5.6.16施行）に伴い、**年度計画、年度評価は不要**となったが、一方で、県との協議により、質保証や進捗管理等の観点から、法人独自の取組として、**令和 6 年度の業務実績（概要）の取りまとめ**を行う

[第二期中期計画期間：平成31年4月～令和7年3月の6年間]

## [令和 6 年度計画の基本方針]

グリーントランスフォーメーション(GX)、デジタルトランスフォーメーション(DX)の進展やコロナ禍などの社会環境の急激な変化を踏まえ、令和 4 年度に見直した第二期中期計画を達成するための取組を重点化

## [重点取組項目]

- 水素エネルギー研究等の G X 関連研究 
- グローバルリーダーをはじめとした次世代リーダーの育成 
- 学際的・創造的研究の推進によるSDGs達成への貢献 
- 教育・研究・社会貢献・法人経営における D X の推進 

令和 7 年 6 月  
兵庫県公立大学法人

## 取組の方向性

ナンバー：中期計画の項目No.

## [教育]

## ① グローバル社会で活躍できる人材の育成 | No.1,2

- 海外大学との学術交流協定の締結等により学生の海外留学を促進
- 学生の自律的かつ継続的な英語学習を支援する取組の推進

## ② 地域のニーズに応える専門人材の育成 | No.4

- DXなどの地域や産業界の新たなニーズに応えるリカレント教育プログラムを開発
- リカレント学習拠点となる新長田キャンパスプラザを開設し、R7稼働に向けて運営体制等を整備

## ③ 高度な専門性を有する人材の育成 | No.6

- 個と社会のWell-beingに貢献する新たな知の拠点の共創を目指す「兵庫県立大学ビジョン2036」に基づき、デジタル・グリーン等の成長分野の人材育成に向けた学部等の改編を検討（工学部工学科への改編、環境人間学部グリーンサイエンス学科(仮称)新設等の改編）

## ④ 総合大学の強みを生かした幅広い知識を有する人材の育成 | No.7

- R8からの新たな全学共通教育の実施に向け、科目編成、担当教員や実施方法等を検討
- 文科省「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」での全学共通の「リテラシーレベル」を超える教育内容に係る上位認定取得の検討

## ⑤ 人材育成に向けた教育システムの充実 | No.9,10,12

- R5設置の「教学マネジメントセンター」による入学時・卒業時アンケート等の分析による教育改善の取組を推進（教学IR）
- 対面とオンラインの利点を組み合わせたベストミックスによる教育を構築（教育DX）
- 県施策（県立大学の授業料等の無償化）の実施に伴う授業料等免除業務への対応
- 障がい学生への支援のためR5に設置したアクセシビリティセンターのさらなる充実について検討

## 令和6年度の主な取組

## ① グローバル社会で活躍できる人材の育成

DX

次世代リダー

- 海外大学の派遣と受入等に資する海外協定先を拡充（21か国・地域の49大学）学生の海外派遣者の拡大を図るため理事長裁量予算を活用して渡航経費の支援を実施（74名）留学・インターシップ等を支援する、EU地域での海外拠点（ルーマニアオフィス）を開設
- 全学共通教育の英語科目についてAIを活用した授業・自主学習の手法を検討

## ② 地域のニーズに応える専門人材の育成

DX

次世代リダー

- 社会科学、工学、情報科学、減災復興政策の4研究科が社会価値創造機構と連携し、DX・AIの内容を含むリスクリングのためのセミナーを開講
- リカレント教育の実施拠点として、新長田キャンパスプラザの施設整備を行い、プレオープンとして県民・学生の参加可能なセミナー等を開催



## ③ 高度な専門性を有する人材の育成

次世代リダー

SDGs

水素・GX

- 「兵庫県立大学ビジョン2036」を策定し、兵庫県立大学創立20周年記念式典開催に合わせて公表
- 工学部の学科改編の設置届出、環境人間学部のグリーンサイエンス学科(仮称)新設を含む改編の検討等、ビジョンの実現に向けた取組を推進



## ④ 総合大学の強みを生かした幅広い知識を有する人材の育成

DX

次世代リダー

- R5設置の高等教育推進機構を中心に、R8からの新たな全学共通教育に係る具体的な検討を進め、科目数の見直し、担当教員、時間割、読替科目等を決定。
- 文科省認定の「数理・データサイエンス・AI教育プログラム」について、社会情報科学部の「応用基礎レベル」認定に向けた準備

## ⑤ 人材育成に向けた教育システムの充実

DX

次世代リダー

- チェックシートによる自己点検や学生の声を踏まえた教学IRによる分析結果に基づく成績分布の適正化等の教学マネジメントを推進し、全学的な教育改善のサイクルが定着
- R8からの新たな全学共通教育の実施に向けた学内ネットワーク環境の増強を検討
- R6から県立大学の授業料等無償化の県施策が実施されたことに伴い、在学生の免除業務を行うとともに、今後の免除対象者の拡大に向けた体制等の検討を実施。KPIを設定して効果的な事業展開を推進
- 障がい学生へのさらなる支援を進めるためアクセシビリティセンターの組織体制の充実について検討

## 取組の方向性

ナンバー：中期計画の項目No.

## 令和6年度の主な取組

## [研究]

**⑥ 高度な研究基盤を活用した先導的な研究の推進** | No.17～19

- 医療機関や企業との共同研究や連携セミナー、技術相談等を積極的に実施、医療関連機器、デジタルヘルスなどにおける先端研究を推進
- 金属新素材研究センターを拠点とした新素材の研究開発
- 本学が有するニュースバルやなゆた望遠鏡のほか、SPring-8やSLF富岳など県下に集積する高度な研究基盤を活用した先導的な研究を推進

**⑦ 県内各地の地域資源を活用した研究の推進** | No.24

- 本学が有するニュースバルやなゆた望遠鏡のほか、SPring-8やSLF富岳など県下に集積する高度な研究基盤を活用した先導的な研究を推進

**⑧ 兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進** | No.25

- 水素エネルギー研究の新たな拠点設置に向けた取組を推進
- 学内外の関係機関等が連携し、文理融合によるグリーン水素関連研究を推進

## [社会貢献]

**⑨ 未来社会を先導する産学官連携の推進** | No.27

- 県、姫路市、企業等と共同でカーボンニュートラルの実現に向けた共創の場を形成
- 社会価値創造機構として産学官連携の取組を産業界・地域社会に発信するほか、新長田キャンパスプラザをランチとして産業界との連携を推進
- 次世代極端紫外光（BEUV）の実用化に向けた開発研究を推進
- ニュースバルの産業利用、産学共同研究の更なるユーザー確保を推進
- 先端医療工学研究所のイノベーションサロンで医師・看護師・企業等と連携し、データヘルス等に関する共同研究・共同事業を推進

**⑥ 高度な研究基盤を活用した先導的な研究の推進** DX

- 電子カルテや医療画像データの二次利用を含む**県立はりま姫路総合医療センター**や**神戸大学医学部**、医療機関、企業との共同研究（44件）や医療工学連携セミナー（8件）、技術相談（59件）等の実施
- **金属新素材研究センター**では、国の大型研究費（3億円）の採択を受けて金属3D加工用の特殊粉末等の技術開発を推進
- **ニュースバル**の機能強化等により次世代極端紫外光（波長6.7nm）のレジスト解像度評価を実現、**なゆた望遠鏡**の超精密偏光装置の完成により世界最高度の精度で偏光度の測定を実現

**⑦ 県内各地の地域資源を活用した研究の推進** SDGs

- 地域資源マネジメント研究科が学識専門員として参画し山陰海岸ユネスコ世界ジオパークの認定継続に貢献
- 県内の篠山層群産化石を対象とした研究から、R6に**新たな恐竜類2種**を連続して発見

**⑧ 兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進** 水素・GX

- 内閣府の交付金（1億円）を活用し、**産官学連携による水素研究基盤の整備**を推進
- **水素エネルギー共同研究センター**の研究との連携のため高度産業科学技術研究所に**燃料電池やメタネーション触媒用の化学状態分析装置**を整備

**⑨ 未来社会を先導する産学官連携活動の推進** 水素・GX SDGs

- 産学官連携にとどまらず、大学の持つ多様なリソースを融合して研究成果の社会実装を推進するため、産学連携・研究推進機構と地域創造機構を**社会価値創造機構に改編**。受託・共同研究の進展に向けた取組を実施（目標300件、R6実績:258件）
- 社会価値創造機構が自治体、商工会議所、兵庫工業会等とともに「**価値共創シンポジウム**」を開催し、本学の最先端の研究成果等を発信
- 高度産業科学技術研究所は企業版ふるさと納税制度による寄附（約8億円）を活用したニュースバルの機能強化の推進、約40社と共同研究を実施、企業からの寄附講座（BEUV研究寄附講座）を開設
- 先端医療工学研究所では、企業・はりま総合医療センターと連携し、**イノベーションサロン**で検討会を開催（14回）。商品開発等のため医師1名、看護師6名を客員研究員として受入れ、共同研究・事業を推進





## 取組の方向性

ナンバー：中期計画の項目No.

## 〔管理運営〕

## ⑩教員評価制度の効果的な運用 | No.59

- 新たに教員評価システムの運用を開始するとともに、教員の業績データ等を活用し、戦略的に研究を推進

## ⑪任用形態の多様化と事務局体制の強化 | No.60

- 法人独自職員の採用や各種制度の整備を推進

## ⑫ダイバーシティ＆インクルージョンの推進 | No.61

- D & I 宣言に基づき、女性教員・外国人教員を積極的に採用
- 子育て中の研究者支援や女性研究者の上位職登用を目的とした研究活動を助成

## ⑬DXによる経営の効率化・高度化 | No.66

- マネジメント部門におけるDXを推進し、総務・財務等の法人運営や教育・研究を支援する業務の効率化・高度化を図る

## 〔両大学間の教育、研究、社会貢献における連携〕

## ⑭両大学間の連携 | No.53～55

- 1 法人 2 大学の強みを生かし、教育、研究、社会貢献の各分野において両大学間の連携の取組を行う

## 令和6年度の主な取組

## ⑩教員評価制度の効果的な運用 DX

- 教員評価システムの運用開始に伴い、システムの安定的な運用を図るとともに、教員の業績データ等を活用して、戦略的な研究を推進

## ⑪任用形態の多様化と事務局体制の強化 SDGs

- 職員のプロパー化に係る県との協議、優秀な嘱託職員の無期転換を実施

## ⑫ダイバーシティ＆インクルージョンの推進 SDGs

- 教員採用について女性限定公募の実施等、女性教員、外国人教員の積極的な採用を推進
- 女性研究者を対象とした研究費助成を実施し、10名の女性研究者を支援（R元採択者の1名がR6に昇任）

## ⑬DXによる経営の効率化・高度化 DX

- 決裁や支払い手続きを電子化する文書管理システムを導入
- 教職員の出退勤時間を把握する出退勤確認システムを導入
- 災害発生時の学生・教職員の安否を把握する安否確認システムを導入

## ⑭両大学間の連携 次世代リーダー

- 地域資源マネジメント研究科教員による専門職大学への3科目の提供（124人受講）
- 国際商経学部GBC学生と専門職大学学生との相互訪問による学生交流

## 中期計画に定める評価指標の状況（抜粋）

## ①入学者志願倍率（学部・一般選抜）

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
実績	6.3	7.0	6.1	6.8	7.1	6.9
目標	6.0	5.9	5.7	5.6	5.5	5.7

目標：公立大学全国平均以上

## ②国際学会で発表した学生数（人）

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
実績	—	—	58	116	211	170
目標	各年度：80人					

## ③外部資金獲得額（億円）

	R元	R2	R3	R4	R5	R6	平均
実績	20.9	20.1	20.7	20.3	22.6	31.2	22.9
目標	6年間平均：20億円						

## ④共同研究・受託研究数（件）

	R元	R2	R3	R4	R5	R6	平均
実績	337	245	239	246	240	238	258
目標	6年間平均：300件						

## ⑤地域連携事業実施件数（件）

	R元	R2	R3	R4	R5	R6	平均
実績	453	599	786	1,047	1,250	1,581	953
目標	6年間平均：650件						

## ⑥公開講座延べ受講者数（人）

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
実績	3,792	2,326	2,364	2,417	3,513	2,674
目標	各年度：2,500人					

## ⑦女性教員比率（%）

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
実績	22.4	22.6	23.0	22.9	23.3	23.6
目標	R6年度：25.0%					

## ⑧外国人教員比率（%）

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
実績	2.9	2.9	3.1	3.2	3.0	3.3
目標	R6年度：5.0%					

研究

管理運営

教育

社会貢献

## 取組の方向性 ナンバー：中期計画の項目No.

### 〔教育〕

- ① **芸術文化及び観光のマネジメント能力を有する専門職業人の育成** | No.36,37
  - 演劇やダンスのワークショップ等の実技と講義を交互に行い、対話的コミュニケーション能力を養成
- ② **世界に通じる専門職業人の育成** | No.39
  - グローバル展開を推進し、多様性を理解できるグローバル人材を養成
- ③ **芸術文化及び観光の双方の視点を培うカリキュラムの編成** | No.40,42
  - 大学設置計画を基本としつつ、独自性を高めたカリキュラム編成や教員の配置等、新たな教育研究体制の構築に向けた検討を実施
- ④ **段階的かつ重層的に体系化した実践教育の展開** | No.44
  - 体系化した実践的な実習カリキュラムの編成により、質の高い専門職業人を育成し、産業界・地域社会と連携した教育課程の編成及びキャリア支援の充実

### 〔研究〕

- ⑤ **芸術文化と観光を実践を重視した研究の推進** | No.46
  - 研究プロジェクトの推進及び研究センター開設への検討
- ⑥ **地域活性化に資する研究の推進** | No.47
  - 地域課題に対応する中で、実践的な研究を推進
- ⑦ **産学官の協働関係・ネットワークの構築** | No.48
  - 研究に関する外部資金の導入支援や研究成果の積極的な情報発信

## 令和6年度の主な取組

- ① **芸術文化及び観光のマネジメント能力を有する専門職業人の育成** 次世代リーダー
  - 両分野のマネジメント能力及び価値創造の能力を養成するコア科目群のうち、必修科目である「芸術文化と観光」の学生理解度は92%と中期計画の目標を上回った
  - 「身体コミュニケーション実習」は選択科目であるが80人と多くの学生が履修
- ② **世界に通じる専門職業人の育成** 次世代リーダー
  - 学生の海外体験を促進し、グローバルな視野を養成するため、海外語学研修や海外実習を含む海外渡航について、理事長裁量経費や基金等を活用し渡航費や宿泊費を助成
- ③ **芸術文化及び観光の双方の視点を培うカリキュラムの編成** 次世代リーダー
  - 両分野の基礎となる知識・技能を修得するための「コア科目群」、分野を超えて学修する「クロスオーバー科目」などの教育課程により、マネジメント能力、価値創造能力を養成
  - 令和7年度からの新カリキュラムを円滑に実施するため、時間割の見直しや科目間の内容調整を実施
- ④ **段階的かつ重層的に体系化した実践教育の展開** 次世代リーダー
  - 学生の就職活動支援のため、キャリアサポートセンターに有資格者を配置し、学生からのキャリア相談に随時応じられる体制を整備
  - ハローワークなどの外部専門家の支援を受けて、模擬面接を定期的に行うなど、きめ細やかなサポートを実施

【topic】学位記授与式(R7.3.21)を挙行し、本学初の卒業生となる1期生61名に対して学位記を授与



学位記授与式の様子

- ⑤ **芸術文化と観光を架橋し、理論と実践を重視した研究の推進** SDGs
  - 芸術文化観光学の研究を推進するため、令和6年4月に研究センターを開設
  - 芸術文化観光学の構築に向け、両分野を横断する複数の研究者による共同研究「芸術文化観光学研究プロジェクト」を学内で公募し、5件のプロジェクトの支援を実施
  - 令和6年度は大学完成年度であることから、「特集-芸術文化観光学の構築に向けて-」として特別編集した紀要「芸術文化観光学研究」を発行
- ⑥ **地域活性化に資する研究の推進** SDGs
  - 但馬地域の自治体や団体等と連携し、地域観光産業活性化に向けた調査・提言や観光プログラムの開発など、地域課題解決に資する調査研究を実施
- ⑦ **産学官の協働関係・ネットワークの構築** SDGs
  - 研究センター主催のシンポジウム「社会的インパクトから見た芸術文化と観光の力 ～豊岡演劇祭を中心に～」を開催(R6.11月)

## 取組の方向性

ナンバー：中期計画の項目No.

## 令和 6 年度の主な取組

## 【社会貢献】

## ⑧地域のイノベーション創出と新たな地域創生モデルの構築 | No.49

- RICを中心に、地域の企業や行政等と協働し、新規事業の創出や新規施策を展開し、持続可能な地域活性化を実現

## ⑨ポストコロナを見据えた地域連携事業の新たな展開 | No.50

- 企業、行政、金融機関等と協働し、ポストコロナを見据えた新たな地域連携事業モデルを構築

## ⑩県民ニーズに応える実践講座の開設や小中高大連携の推進 | No.51

- 県民ニーズを踏まえた公開講座の開設や、地域への図書館等の開放により、特色ある学びの機会を県民に広く提供

## ⑪地域と世界を結びつける国際交流の推進 | No.52

- 海外大学等との協定締結や海外との交流を促進し、地域の国際交流に貢献

## 【管理運営】

## ⑫戦略的広報の展開によるブランドの構築と知名度の向上 | No.63

- 効果的に情報発信する広報活動を戦略的に展開し、教育・研究・社会貢献の取り組みを各メディアを通じて積極的に発信

## ⑧地域のイノベーション創出と新たな地域創生モデルの構築

SDGs

- 地域との協働プロジェクトを展開し、豊岡市や豊岡市工業会など但馬地域の行政・企業等をはじめとし、23者と39件のプロジェクトが成立

【topic】市民をはじめ多くの人に名草神社の魅力を知ってもらい、地域資源を活用した地域創生を支援するため、令和4年度に養父市と連携して制作した演劇作品「わすれなぐさ」をやぶ市民交流広場（YBファブ）で再演した。



「わすれなぐさ」上演の一幕

## ⑨ポストコロナを見据えた地域連携事業の新たな展開

SDGs

- 大阪・関西万博を見据え、兵庫県が実施する「ひょうごフィールドナビリオン」の取組において、公式HPの体験レビューを学生が執筆したほか、但馬県民局のリーフレット制作にあたり、学生が考案したモデルコースを提案



モデルコースが掲載されたリーフレットを発表

## ⑩県民ニーズに応える実践講座の開設や小中高大連携の推進

SDGs

- 主に但馬地域在住・在勤のビジネスマンを対象とした、コミュニケーションや経営戦略に関する公開講座を実施したほか、コンテンポラリーダンスや中国語入門など、本学の特長を生かした一般市民向けの教養講座等を開講し、延べ175人の市民が受講

## ⑪地域と世界を結びつける国際交流の推進

SDGs

- 協定を締結した大学への海外実習や語学研修を実施するなど、グローバル人材養成に向けた国際交流事業を展開したほか、新たに韓国の京畿大学と協定を締結

## ⑫戦略的広報の展開によるブランドの構築と知名度の向上

DX

- 令和6年度より本格的に運用を始めた新HPにおいて、コンテンツの充実や学生ブログの連載投稿に取り組み、情報発信力を強化
- 学長記者会見を定期的に行い、本学の取組を積極的に発信。開学からメディアに取り上げられた件数は累計で741件（R6：163件）
- 2050年にも但馬地域に存在する意義を有し、両分野を架橋した教育研究を通じて社会に貢献し続けるための道標として、芸術文化観光専門職大学ビジョン2050を令和7年3月に策定

## 中期計画に定める評価指標の状況

## ①入学者志願倍率 (一般選抜)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
実績	—	7.6	2.8	4.0	2.9	3.6
目標	各年度：5倍					

教育

## ②科研費等外部資金申請者率 (%)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
実績	—	—	75.0	61.5	75.6	72.5
目標	各年度：80.0%					

研究

## ③連携事業者数 (者)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
実績 (期間累計)	—	—	9 (9)	19 (28)	23 (51)	23 (74)
目標	R6年度：50者（累計）					

社会貢献

## ④メディアに取り上げられた件数 (件)

	R元	R2	R3	R4	R5	R6
実績 (期間累計)	—	—	241 (241)	171 (412)	166 (578)	163 (741)
目標	R6年度：600件（累計）					

管理運営



兵庫県立大学  
UNIVERSITY OF HYOGO



芸術文化観光専門職大学  
Professional College of Arts and Tourism

## 参考

第二期中期目標期間に係る  
業務実績評価



# 第二期中期目標期間に係る業務実績評価

地方独立行政法人法第78条の2に基づき、令和7年度は、第二期中期目標期間（令和元～6年度）に係る業務実績評価を実施した。  
 なお、法改正により年度計画の策定及びその業務実績評価が無くなったため、令和5、6年度は法人が行った自己評価を参考に記載した。  
 （令和元～4年度は、年度計画に基づく自己点検評価結果（設置者へ提出）を記載）

## I 自己評価結果

### 中期目標期間に係る業務実績評価：中期計画どおり達成

令和元～4年度終了後の見込評価において、過去4年間は順調に年度計画を達成しており、残る2年間で第二期中期計画の着実な達成が見込まれると自己評価していた。  
 そして、令和5、6年度の2年間の業務実績を加えた6年間の業務実績を自己点検した結果、全体としては概ね第二期中期計画どおり達成しているものと評価した。

## II 自己評価の状況（a：計画を上回って実施 b：計画を概ね実施 c：計画をやや下回っている d：計画を大幅に下回っている）

1. 兵庫県立大学	R元	R2	R3	R4	R5	R6	総括
<b>（1）教育に関する措置</b>							
ア グローバル社会で活躍できる人材の育成	b	b	b	b	b	<b>b</b>	<b>b</b>
イ 地域のニーズに応える専門人材の育成	b	c	b	b	b	<b>b</b>	<b>b</b>
ウ 高度な専門性を有する人材の育成	b	b	b	a	b	<b>a</b>	<b>b</b>
エ 総合大学の強みを生かした幅広い知識を有する人材の育成	b	b	a	b	b	<b>b</b>	<b>b</b>
オ 人材育成に向けた教育システムの充実	b	a	a	a	a	<b>a</b>	<b>a</b>
<b>（2）研究に関する措置</b>							
ア 高度な研究基盤を活用した先端研究の推進	a	c	a	b	a	<b>a</b>	<b>a</b>
イ 地域資源を活用した研究の推進	b	a	a	b	b	<b>b</b>	<b>b</b>
ウ 兵庫の先進的な取組を活用した研究の推進	a	a	a	b	b	<b>b</b>	<b>b</b>
<b>（3）社会貢献に関する措置</b>							
ア 未来社会を先導する産学官連携の推進	a	a	b	b	b	<b>b</b>	<b>b</b>
イ 大学が有する資源の地域社会における活用	a	b	a	a	a	<b>a</b>	<b>a</b>
ウ 次世代の兵庫を担う人材の県内定着など地域の期待に応える取組の推進	b	b	b	b	b	<b>b</b>	<b>b</b>
a 評価（計画を上回って実施）項目数	4	4	6	3	3	<b>4</b>	<b>3</b>

2. 芸術文化観光専門職大学	R3	R4	R5	R6	総括
<b>（1）教育に関する措置</b>					
ア 芸術文化及び観光のマネジメント能力を有する専門職業人の育成	b	b	b	<b>a</b>	<b>a</b>
イ 地域活性化に貢献する専門職業人の育成	b	b	b	<b>a</b>	<b>a</b>
ウ 世界に通じる専門職業人の育成	b	b	b	<b>a</b>	<b>a</b>
エ 人材育成に向けた教育システムの構築	b	b	b	<b>b</b>	<b>b</b>
<b>（2）研究に関する措置</b>					
ア 専門職大学の強みを生かし、地域活性化に資する研究活動の推進	a	a	b	<b>b</b>	<b>b</b>
イ 研究成果の社会への還元	b	b	b	<b>b</b>	<b>b</b>
<b>（3）社会貢献に関する措置</b>					
ア 大学が有する資源の地域社会における活用	a	a	a	<b>a</b>	<b>a</b>
イ 大学の特長を生かした地域貢献の推進	b	b	b	<b>b</b>	<b>b</b>
ウ 芸術文化及び観光に係る国際交流の推進	b	b	b	<b>b</b>	<b>b</b>
a 評価（計画を上回って実施）項目数	2	2	4	<b>4</b>	<b>4</b>



# 第二期中期目標期間に係る業務実績評価

3. 両大学の教育、研究、社会貢献 における連携	R元	R2	R3	R4	R5	R6	総括
	—	—	b	c	b	b	b

4. 管理運営	R元	R2	R3	R4	R5	R6	総括
<b>1 戦略的経営の推進に関する措置</b>							
(1) 社会ニーズの変化に対応できる体制の構築	b	a	b	a	b	b	b
(2) 魅力発信と知名度向上	b	b	b	b	b	a	b
(3) 教育研究基盤の計画的な新規投資	c	b	b	b	b	b	b
<b>2 効率的経営の推進に関する措置</b>							
(1) 経営資源の重点配分・相互利用	b	a	a	b	b	b	b
(2) 安全・快適な環境の計画的整備	b	b	b	b	b	b	b
<b>3 自律的経営の推進に関する措置</b>							
(1) 財務運営の改善	a	a	a	b	a	a	a
(2) 自己点検・評価及び情報の提供	b	b	b	b	b	b	b
(3) コンプライアンスの推進	b	b	b	b	b	b	b
a 評価（計画を上回って実施）項目数	1	3	2	1	1	2	1

## Ⅲ 自己評価結果のまとめ

評価結果	R元	R2	R3	R4	R5	R6	総括
a（計画を上回って実施）	5	7	10	6	8	10	8
b（計画を概ね実施）	13	10	19	22	21	19	21
c（計画をやや下回っている）	1	2	0	1	0	0	0
d（計画を大幅に下回っている）	0	0	0	0	0	0	0
合 計	19	19	29	29	29	29	29

## （参考）自己評価の方法

### 【1】各年度に係る業務実績評価

#### 1 取組事業の評価

小項目の下にそれぞれ設定した計76の各事業の取組状況を検証し評価

評価	評価の基準	（計画達成度）	事業数	県立大	専門職大	両大学の連携	管理運営
◎	計画を上回って実施	（100%越）	13	6	6	0	1
○	概ね計画どおり進行	（90%以上）	63	29	11	3	20
△	計画をやや下回っている	（70%以上）	0	0	0	0	0
×	計画を大幅に下回っている	（70%未満）	0	0	0	0	0
合 計			76	35	17	3	21

#### 2 小項目（29項目）の評価

1の評価をもとに、中期計画の小項目（29項目）ごとに総合的に検証し評価

評価	評価の基準	小項目	県立大	専門職大	両大学の連携	管理運営
a	計画を上回って実施 ◎：25%以上 △・×：なし	8	3	4	0	1
b	概ね計画どおり進行 ◎：25%未満 △・×：なし	21	8	5	1	7
c	計画をやや下回っている △：1つ以上	0	0	0	0	0
d	計画を大幅に下回っている ×：1つ以上	0	0	0	0	0
合 計		29	11	9	1	8

### 【2】中期目標期間に係る業務実績評価

#### ○ 小項目（29項目）の評価

令和元年度～4年度の年度計画の実施状況・自己評価結果に加え、令和5、6年度の業務実績に対する自己評価を考慮のうえ、

a～dの4段階により中期計画の小項目（29項目）ごとに総合的に検証・評価